



横浜市立元街小学校

令和8年度 学校だより 6月号

Tel 681-7810

Fax 662-5842

やす じかん たの こ
休み時間を楽しむ子どもたち

校長 工藤雅彦

5月は気温の高い日もありましたが湿度が低く過ごしやすく、晴れた気持ちの良い日も多かったこともあり、屋外での活動を子どもたちが元気に取り組む姿を見ることができました。ある日の中休み、多くの子どもたちが屋外で過ごしていました。校庭ではドッジボールやボール投げ、バスケットボール、鬼ごっこが人気です。遊びのルールなど楽しくなるを工夫し遊んでいます。鬼ごっここの子どもたちは人混みでも巧みに走り抜けます。まだ上手に乗れていませんが、竹馬にチャレンジしている子どもたちもいます。粘り強くコツをつかもうとしています。「校長先生！この葉、桑の葉だよね！」と、カイコを飼育するために敷地内の桑の葉を見つけている3年生の子どもたち。コンクリートの隙間から小枝でたくさんのダンゴムシを掘り出して歓声を上げている5組の子どもたち。カエル池のメダカを静かに見ている子どもたち。下庭では関先生が柔らかくしてくれた造形砂場で早速砂遊びをしている子どもたち。虫取り網で虫取りをしている子どもたち。元街小名物の長い滑り台では、階段を駆け上がり何度も滑っている子どもたち。ちゃんと自分たちで間隔をあけ次々と滑っていきます。雲梯や鉄棒を楽しむ子どもたちも増えてきました。くるくる、ぴよんぴよん身軽です。上り棒では1年生が一生懸命上まで上りきろうとしています。6年生が見守って声をかけて一緒に遊んでいました。下庭は低学年に人気です。

そこには教師の指示や助けは在りません。子どもたちそれぞれが自ら興味をもったことに、自ら取り組み楽しんでいきます。教師の指示は在りませんが仕掛けがあります。理科や体育科などの学習がきっかけとなっているものや魅力ある場の提供があります。また、友達同士のコミュニケーションが自然に生まれます。課題（トラブル）が発生することもあります。わいわいみんなで何とかしていることがほとんどです。日本語がまだ苦手な子に、身振り手振りや単語で必死に何かを伝えようとしています。なんとなく伝わっています。実体験や状況・動きと連動して言葉にふれることができます。太陽の光を浴び、無理なく筋力と心肺機能を向上させ巧みな動きを身に付けます。発見や感動も転がっています。教職員も時間を見つけ見守ったり一緒に遊んだりしていますが、休み時間のあと保健室が混み合うときもあります。自由に使える休み時間は子どもたちの成長にとって欠かせない魅力的な時間に感じます。遊びの中で自然に学び、鍛えられています。自由であるからこそ、子どもたちはルールやマナーの必要感も感じるができます。今回お伝えした様子は屋外でしたが、校舎内でも友達同士たわいもないおしゃべりで笑ったり、折り紙や読書、係活動をしたりする子どもたちもいます。教師と学習以外のおしゃべりする子どももいます。それらも休み時間の過ごし方の一つです。休み時間の終わりにだけチャイムが鳴ります。それだけ夢中になっているからです。しかし元街っ子はチャイムの音で遊びをさっとやめ教室へと戻っていきます。

元街小ではそんな時間を大切にするため毎日20分間の中休みと、通常は10分間の昼休みですが、毎週火曜日は清掃時間をカットした30分間の「ロング昼休み」もあります。児童会活動やスマイルタイムにも利用され、有効活用されています。授業時間は学校生活の中心ですが、休み時間も大切な学びや成長の時間として考えています。授業参観では、先日行われた中休みを挟んだ土曜授業参観で休み時間をご覧になられた方もいらっしゃったと思いますが、お家でも休み時間の様子なども子どもに聞いてみるのもよいです。